

アールヌーボーと浮世絵：国際的な絵
ジェミー・モズル
日本251、秋の学期 2010
セントオラフ

私は「アールヌーボー」と浮世絵や日本画のつながりについてはっぴょうします。

このそうごこうりゅうのえいきょうは特に「天野喜孝」と言う日本の画家の絵に見えると思われます。

まず、天野義孝のしょうがいについて話します。次はアールヌーボーと日本画のつながりについて説明します。さいごは、このつながりのいさんを説明します。

天野義孝は1952年に生まれました。

たくさん挿絵（さしえ）をして、日本の絵の世界と、西洋の絵の世界にも、色々なえいきょうをあたえます。例えば、天野は「ファイナルファンタジー」や「ヴァムパイアハンター」のキャラクタをデザインしたことで知られています。

天野のサイトによると、70時代に、浮世絵とヨーロッパの画家をよく勉強しました。西洋の絵の中で、アールヌーボーは特に天野のスタイルをえいきょうしました。でも天野の絵は浮世絵に似ているところもあるではないでしょうか。文様（もんよう）と明るい色の使い方は浮世絵のようだと思われます。

こうして、「かわせはすい」と言う有名な新版画の画家の絵を見ると、その似ているところに気がつきます。

でも天野はどうしてアールヌーボーと浮世絵を勉強しましたか。この二つのスタイルは関係があるのでしょうか。

かんけいを理解するために、短い「絵の歴史」を説明することは必要でしょう。

さいしょは、江戸時代に、「浮世絵」と言うの版画が作っていました。静かな時だったから、多くの画家がたくさん美しく、日本的な版画を作れましたが、めいじ時代が始まると、ヨーロッパやアメリカのえいきょうが大きくなりました。

西洋の絵は特に新しい「えんきんほう」、や書き方、や絵のぐを日本に持って来ました。

1876年には、「洋画」と言う欧州的な油絵のスタイルが日本に入って来ました。あさいちゅうは油絵を書いた画家です。すぐその後で、「日本画」と呼ばれているきこうが始まりました。

あさいちゅうと違って、たけうちせいほやおかくらかくぞうは日本的なスタイルを使いました。

その一方で、日本の絵はヨーロッパの絵にもえいきょうしました。たとえば、Van Gogh, Monet, Degas, Mary Cassatt, など 西洋の画家は自分の美術品に日本的なスタイルを使いました。

1900年には、あさいちゅうと他の画家はパリに行って、アールヌーボーを見ました。

1890－1905年の間に、特別な「アールヌーボー」と言うスタイルは人気がありました。「アルファンスムッカ」は「アールヌーボーの発明者」と呼ばれています。アールヌーボーはあさいちゅうのような画家をえきょうしましたが、日本画はアールヌーボーにしげきを与えました。

実は、フランスにも、「ジャパニスム」が始まりました。つまり、日本とヨーロッパがお互いにえいきょうしました。

今この二つの絵画（かいが）の似ているところが見えるのではないのでしょうか。

日本的なスタイルとアールヌーボー的なスタイルは上手で色を使って、絵がらを使いますから、お互いに似ています。天野義孝は両方を使って、自分の美しいスタイルを発明したと思われます。

それにくわえて、他の天野のように西洋と日本的なスタイルを組み合わせる画家が存在します。一つの例は、アウドリーかわさきです。浮世絵とアールヌーボーのつながりは現在も、つづいています。

この二つのスタイルは歴史上（れきしじょう）の関係があると言えます。それに、アールヌーボーと日本画はお互いによく合えて、芸術的な（げいじゅつてき）遺産（いさん）との間で対話をそうぞうします。すなわち、お互いにえいきょうをしました。結局に（けっきょうくに）、このような対話は新しい刺激（しげき）を与えて、新しい絵を創作（そうさく）します。

画家卵として、この二つのスタイルは私の絵にもいしきを与えます。

はっぴょうを聞いてくれてありがとうございました。質問があれば、よろしく願ひします。

参考：

<http://www.gm2000.co.jp/profile/amanoname.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/???>

<http://anyt.jp/pc/>

<http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/fa20091023a2.html>

Art of the Japanese Postcard - Masterpieces from the Leonard A. Lauder Collection